



学校だより

5月号

令和8年4月30日
横浜市立すみれが丘小学校

学校教育目標

〈すすんで みんなで れいをつくして がんばりつづけて おもいあって かがやきつづけるすみれっ子〉
～豊かな人間関係の中で、一人ひとりが自分のよさを十分に発揮し、互いに高め合う子を育てます～

子どもたちの中で学ぶ

校長 藤本 光子

入学式の前日に、新6年生が準備の手伝いに登校しました。

体育館の式場準備、教室の飾り付け、昇降口の掃除…いろいろと活躍し、みんな張り切っていました。自分の持ち場が終わった子のつぶやきが聞こえてきました。「他のところで終わってないところないかな。」自分の担当以外のところを手伝おうと気にかけているのでしょう。できることを精一杯やるぞ、という気持ちが溢れています。この前まで5年生だった子どもたちは、入学式準備という作業を経て、もう6年生らしい顔つきになっていました。

もう一つ、おもしろかったのは、私が見回りをしていると、体育館から数名が飛び出してきたことです。「新しい校長先生ですか?」とわらわらと出てくる子どもたち。とても可愛らしかったです。

どの学校でも「校長先生」という存在は、人気があります。廊下を歩けば多くの子どもが挨拶をしますし、学校クイズをするとするとクイズ作りのために校長室にインタビュアーが次々とやってきます。

ただ、いつでもどこでも必ず「校長先生」が一番とは限りません。

先日、こんな場面に出くわしました。

雨の中の登校時のことです。昇降口で、高学年の子が低学年の子に声をかけていました。いつもなら私に真っ先に挨拶をするのですが、その子の視線はまっすぐに低学年の子どもに向けられていました。どうやらその時は、低学年の子のレインコートの片付け方についてアドバイスをしていたようでした。しばらく見守っていると、ふと私がそばにいることに気づいたようで、慌てた様子で「あ、校長先生、おはようございます。」と丁寧に挨拶をしました。そして、すぐにまた視線は低学年の子に向けられ、レインコートのアドバイスに戻ったのです。

低学年の子の世話に夢中になっているところが素敵、校長先生に気付いたらきちんと挨拶をすることも素敵、でも優先されるのは低学年の世話であるところがやっぱり素敵。

校長先生より困っている子を優先する姿は「健全」です。子ども同士の関わりの中で、優しさや思いやりが発揮されるのは、当然の姿なのです。

子どもに「優しさ」を教えようとする時、どのような方法が思い浮かびますか?たとえ優秀な家庭教師を雇っても「優しさ」を教えることは困難です。なぜなら、大人が子どもに教えるだけの世界では「優しさ」を表現する行動を身につけることはできないからです。

子どもが、子どもたちとのふれあいの中で学ぶこと以上のことはありません。

子どもは子どもたちの中で学ぶ。私たちが最も大切にすべきことであり、このことを心に留めながら今後も支援していきたいと思えます。